

百周年によせて（90歳間近にて思うこと）



北原 貴子

（高女25回）伊那市 錦町在住

弥生卒業後 20才代は、戦争そして終戦の混乱期で、遅々に意を決し、もともと関心のあったことだったので、服作りを始め、やるからには、伊那で最後まで残れるようにと、頑張って一筋のレールを進みました。

枝として趣味を持つと、子供の頃から好きだったクラシック音楽、テニスは在学中からの延長で続け、山登り、冬はスキー。

時には山スキーで、危うく遭難の目にも会い、怪我もありました。

水泳は還暦の記念にと八年間続けましたが、年令と共に無理となって。俳句はそのまま続けています。

ゴルフだったら年配でもできるからと、伊那で始まるのが待てなくて、ドライバー一本だけ入荷したのを買い、本と首っ引きで素振り続けるうち、ようやく伊那もゴルフ時代となって賑やかとなりました。

次々と逝く友に悲しみ深く落ち込んでいた折、五行歌を俳友から勧めて頂き、東京の若いお仲間ができたことが、思いがけぬ喜びとなりました。

希有の思い出は、洋裁の友が 徳川義親様の秘書だった関係で、殿様のお屋敷へ上京し、たびたび おじゃましたことです。

店舗設計図を見て頂き、批評をいただいたり、作図その他 洋服談議で盛り上がったこと、御自分で洗われた 皺のある上衣を召されていたこともなつかしいです。

六十才で仕事はできないと思っていたのに、今だに できることに感謝して、日々新たな感覚に挑戦する気構えで、90才間近で、ゴルフが 無事ラウンドできることを願って春を待っております。家庭人としての役を果たさぬ私に 原稿依頼を頂き、厚かましく書かせていただきました。